

<放射線科>

概要

1. 概要

従来通り放射線科は診断業務と放射線治療業務とがわかれており、前者は 2010 年度から引き続き館靖 医師と櫻井悠介 医師が常勤の画像診断専門医として画像診断と IVR を担当し、後者は放射線治療専門医である浅野晶子 医師が放射線治療を担当した。それに加え、名古屋大学放射線科医局より代務医師7名が当院の画像診断を担っていた。前年度と常勤医の変更はなかった。

2. 業務と今後

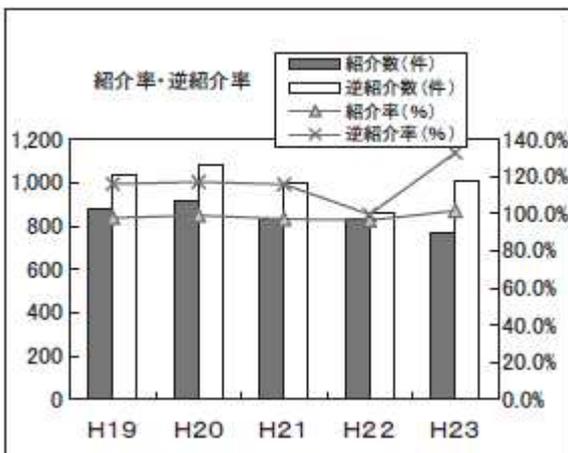
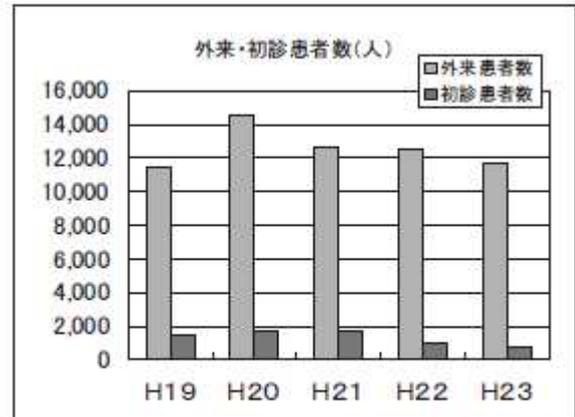
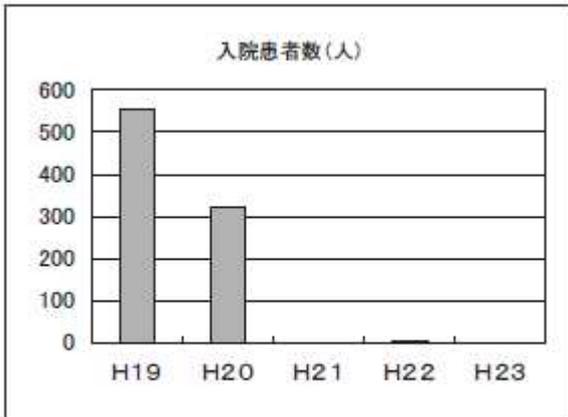
画像診断部門について、現在当院には CT が三台（横河メディカル社製 Bright Speed Elite、東芝メディカル社製 Aquilion 16 TSX-101A、そして前年度導入された 64 列の Aquilion CX TSX-101A）、MRI も三台（シーメンス社製 MAGNETOM Symphony が二台、MAGNETOM Vision 一台）、RI は二台（シーメンス社製 ECAM3/8 と ECAM PLUS）、そして血管撮影装置は、かねてよりフィリップス社製の INTEGRIS が三台稼働していたが、うち一台が新機種である腹部用血管撮影装置シーメンス社製の Artis zee TA+ SOMATOM Definition AS と入れ替えになり、2012.3 月より稼働している。2011 年度の CT 総検査数は 32,522 件で、そのうち放射線科画像診断専門医による読影件数は 16,801 件であり、読影率は約 52% であった。

MRI は総検査数が 12,500 件のうち読影数が 6,181 件で読影率は約 50%、また RI においては、総検査数が 1,673 件のうち読影数は 1,242 件で読影率は約 74% であった。総読影率は約 52% であった。前年度と比し、総検査数は CT が +4694 件の、MRI は +1013 件、RI は +84 件の増加であった。

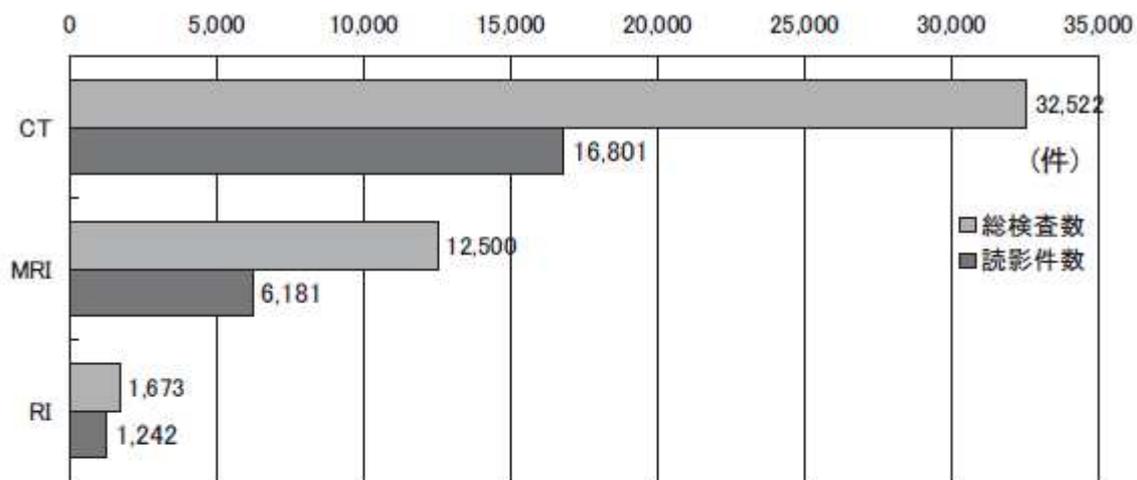
放射線治療部門は、2011 年度の外照射の実患者数が 422 人、総治療件数が 11396 件であった。前年度と比し、実患者数は -94 人であったが、総治療件数は +173 件であった。上記の外照射の実患者数のうち、脳の定位照射の実患者数は 23 人であり、その総治療件数は 44 件であった。

放射線治療の外照射装置（ライナック）は平成8年に導入された Varian 社製 CLINAC 2100C 一台のみが稼働しており、一日あたり 25 人～50 人の治療をこなすには故障時の対応が困難であり、また近年の治療技術の進歩に伴う IMRT、体幹部定位照射といった複雑な照射法の実施

が不可能である現状から、二台目として早期の新機種¹の導入が望まれる。また、コバルトによる子宮頸癌や子宮体癌に対する小線源治療の実患者数は 23 人、総治療件数は 82 件であった。



検査件数と読影数



1. 画像診断部門

検査種別	総検査数	読影件数	読影率
CT	32,522	16,801	51.7%
MRI	12,500	6,181	49.4%
RI	1,673	1,242	74.2%
計	46,695	24,224	51.9%

2. 放射線治療部門

実患者数	422人
総治療件数	11396件

業績

- 学会・研究会発表
- 座長

学会・研究会発表

1. ●(非腫瘍性)卵巣捻転の一例
櫻井悠介、館 靖、浅野晶子
名古屋レントゲンカンファレンス(名古屋市)2011.12.10
2. Supplemental value of diffusion weighted whole body imaging with background body signal suppression(DWIBS) technique to whole body magnetic resonance imaging in detection of bone metastases from thyroid cancer.
櫻井悠介、川井 恒、岩野信吾、小川 浩、長縄慎二
ECR2012(欧州放射線学会)(ウィーンオーストリア)2011.3.1～5

座長

1. すべての癌治療は PET/CT に通ずー癌患者モニタリングの最強ツールー
浅野晶子
第6回三河 PET 研究会(豊橋市)2011.3.3

